

NEWS RELEASE



【報道関係各位】

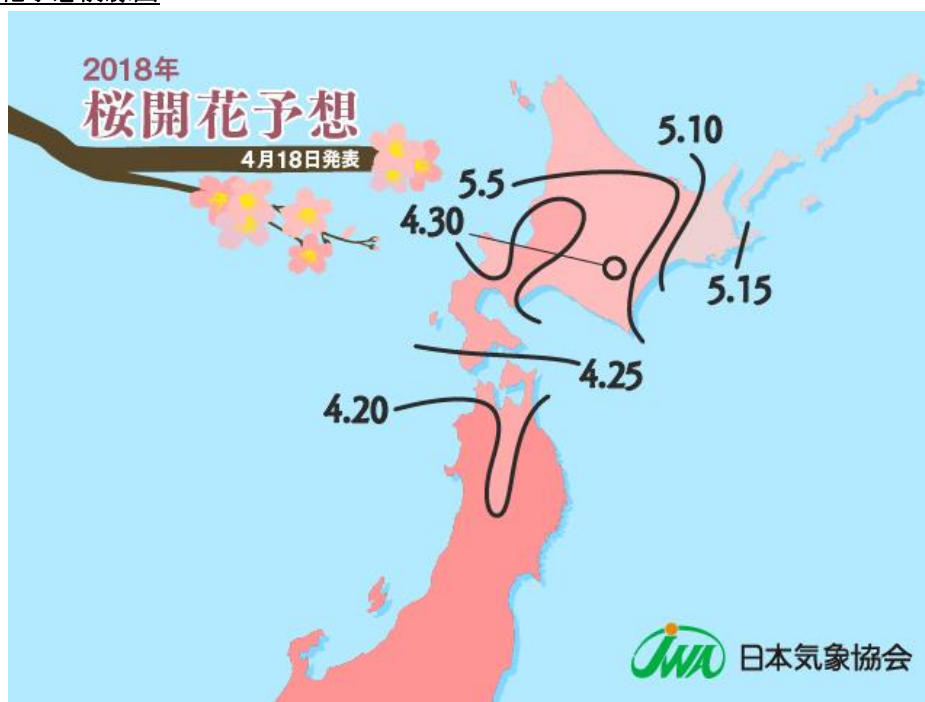
2018年4月18日
一般財団法人 日本気象協会

2018年桜開花予想(第9回) ～東北北部でサクサク！ 来週には桜前線が北の大地に～

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己、以下「日本気象協会」）は、日本全国92地点の桜（標本木 [ソメイヨシノほか] 53地点、自治体・公園など36地点、および日本三大桜3地点）の開花予想日（第9回）を2018年4月18日（水）に発表します。

- ◆今週後半からの暖かさで桜前線が再びスピードアップ！
- ◆来週にかけて東北北部で見ごろに！
- ◆来週中に桜前線は津軽海峡を越え、北海道の札幌や函館などで開花。

■2018年桜開花予想前線図



■開花と満開の傾向

4月上旬から先週末まで寒の戻りがあった影響で、4月4日の山形の開花から2週間ほど、開花の便りは届きませんでした。桜前線のスピードは鈍っていましたが、今週に入ってから気温が平年並みに戻ったため、桜前線は北上を再開し、17日に秋田と盛岡、八戸で開花しました。秋田では平年より1日早く、盛岡と八戸では平年より5日前後早い開花となりました。

今週の後半から来週にかけて、気温が平年並みか高い日が多くなるため、花芽の生長が促されるでしょう。そのため、来週前半には東北北部の山沿いでも開花する見込みです。来週後半には桜前線はいよいよ津軽海峡を越え、北の大地へ到達するでしょう。北海道の函館や札幌、内陸の旭川や帯広では、平年より5日ほど早く4月末までに開花し、5月上旬には北海道の多くの地点で開花する見込みです。桜前線は、釧路・根室に5月中旬に達するでしょう。

満開の状況は、長野県の標高の高いところや山形県などでは先週から今週前半に、平年より10日ほど早く満開を迎えました。満開のピークを越えたところもありますが、気温が平年より低い日が多かったため、見ごろが長続きしています。

これから満開となる東北北部では平年並みか5日前後早く、4月下旬に満開となるでしょう。北海道では平年より3日から6日早く、5月上旬に満開になるところが多く、大型連休中に見ごろになりそうです。最も遅い道北の稚内や道東の釧路・根室では5月中旬に開花してから4日前後で満開となり、桜色で彩られるでしょう。



■日本気象協会 長期予報（気温）

気温	4月下旬まで	5月上旬	～桜開花予想チームのコメント～
北日本	平年並みか高い	平年並みか高い	北日本の気温は、これから5月上旬にかけて平年並みか高い見込みです。




■2018年 桜の予想開花日・満開日（主な地点）

	地点	予想開花日	平年開花日	昨年開花日 (2017年)	予想満開日	平年満開日	昨年満開日 (2017年)
福岡県	福岡市	(3月19日)	3月23日	3月25日	(3月27日)	4月1日	4月5日
香川県	高松市	(3月24日)	3月28日	4月2日	(3月29日)	4月5日	4月8日
広島県	広島市	(3月22日)	3月27日	3月27日	(3月28日)	4月4日	4月7日
大阪府	大阪市	(3月20日)	3月28日	3月30日	(3月26日)	4月5日	4月6日
愛知県	名古屋市	(3月19日)	3月26日	3月28日	(3月27日)	4月3日	4月6日
東京都	千代田区	(3月17日)	3月26日	3月21日	(3月24日)	4月3日	4月2日
長野県	長野市	(4月2日)	4月13日	4月14日	(4月6日)	4月17日	4月17日
富山県	富山市	(3月27日)	4月5日	4月5日	(3月30日)	4月10日	4月8日
新潟県	新潟市	(4月3日)	4月9日	4月8日	(4月5日)	4月14日	4月13日
宮城県	仙台市	(3月30日)	4月11日	4月7日	(4月4日)	4月16日	4月13日
北海道	札幌市	4月28日	5月3日	4月28日	5月2日	5月7日	5月3日

※予想開花日、予想満開日の（ ）はすでに開花や満開になった地点です。

全92地点の桜（標本木 [ソメイヨシノほか] 53地点、自治体・公園など36地点、日本三大桜3地点）の予想開花日・予想満開日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp（てんきじゅーぴー）』桜の開花予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にて公開しています。

■各地の気象予報士コメント

	<p>日本気象協会 長野支店（<u>濱中 弘樹</u>）</p> <p>冬の寒さと春の暖かさとで休眠打破が順調に進み、県内でも記録的に早い開花が続出しました。期間中に2度、春の嵐に見舞われましたが、今年も長野県の桜は私たちの目を十分に楽しませてくれました。</p>
	<p>日本気象協会 東北支社（<u>佐藤 理恵子</u>）</p> <p>東北地方では、寒の戻りの影響で最高気温は平年並みか低い日が多くなりましたが、今週は平年より高い日が多い予想です。一旦足踏みしていた花芽の生長は一気に加速し、東北北部の桜は次々と開花しそうです。来週は見ごろを迎えるところが多くなるでしょう。</p>
	<p>日本気象協会 北海道支社（<u>持田 浩</u>）</p> <p>北海道地方は、週末にかけて一カ月以上先の暖かさとなる日が続く見込みです。この暖かさに誘われ、花芽の生長は順調に進み、開花は平年より5日前後早まりそうです。来週には津軽海峡を渡り、道央や道南などでは大型連休中には満開の桜を楽しめるところが多いでしょう。</p>



日本気象協会では日本全国 89 地点の桜（ソメイヨシノほか）の開花予想以外にも、「日本三大桜」と呼ばれている福島県の「三春滝桜」（みはるたきざくら：ベニシダレザクラ）、山梨県の「山高神代桜」（やまたかじんだいさくら：エドヒガンザクラ）、岐阜県の「根尾谷淡墨桜」（ねおだにうすずみざくら：エドヒガンザクラ）の開花予想を「tenki.jp」にて公開しています。

【言葉の説明】

平年：1981～2010 年の平均値

開花日：標本木で 5～6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日（気象庁の観測基準と同じ）

満開日：標本木で 80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日（気象庁の観測基準と同じ）

休眠打破：前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

以上